

イノシシは悪者か？



今年の干支でもある「イノシシ」。皆さんは、イノシシに対してどのようなイメージを持っていますか。「猪突猛進で真つすぐしか走れない」「気性が荒い」「ウリ坊がかわいい」など――さまざまあると思いますが、

その生態についてはあまり知られていないのではないのでしょうか。

「身近な動物じゃないし――」と思う人も多いかもしれません。

しかし近年は、白鷹町でもイノシシの出没情報が増加傾向にあります。

平成30年中に町に寄せられたイノシシの出没情報は10件ほどで、

被害作物はジャガイモなどの芋類や稲穂など。

また、作物以外にも水田の畦畔けいはんを掘り起こして破壊するなど、

農業用、自家消費用問わず被害を及ぼしています。

では、なぜイノシシは私たちの生活域に出没するのでしょうか。

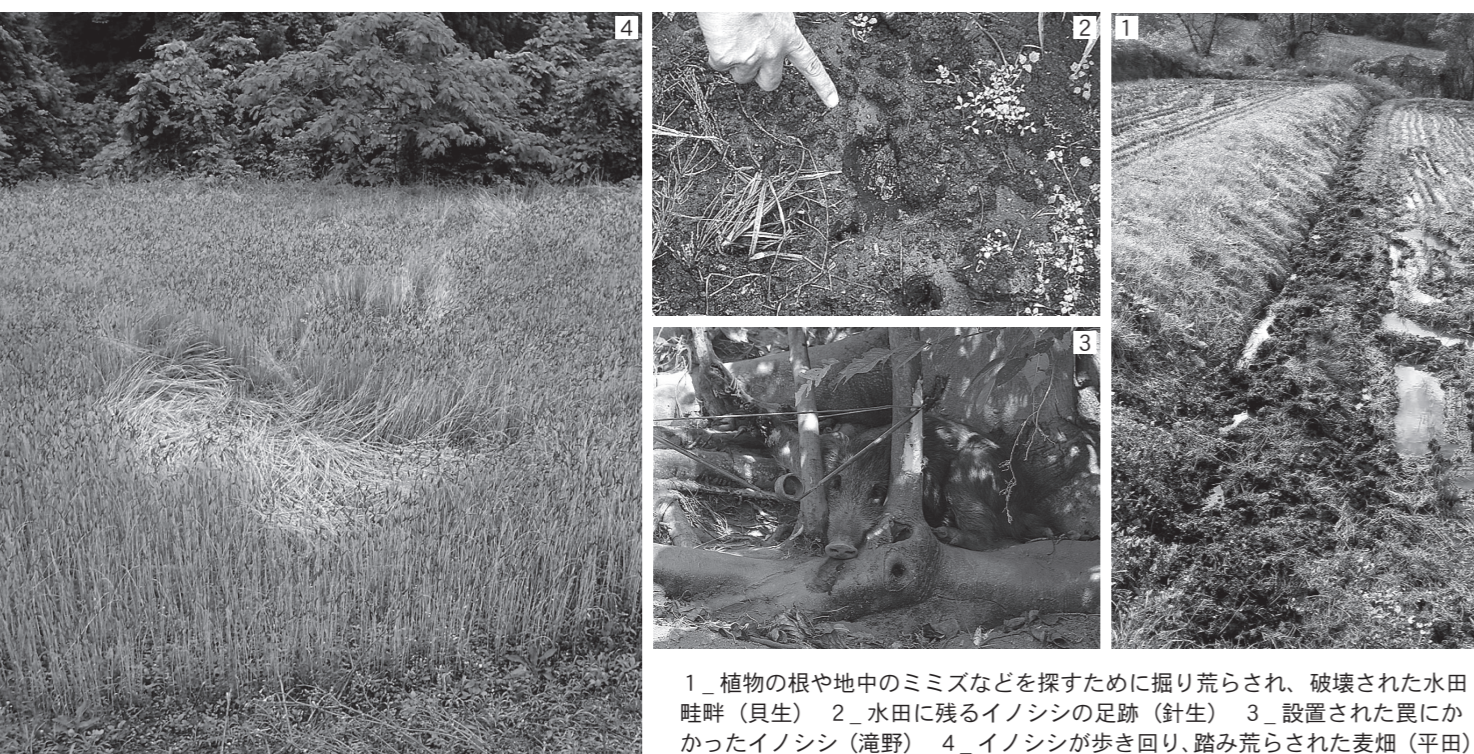
私たちの生活に害を加えるイノシシは悪者なのでしょうか。

地域や農業等さまざまな方面で発生しているイノシシ被害を防ぐために、

その生態を紐解き、私たちに何ができるのかを考えてみましょう。

成獣の体重は、60～100キロ。環境によっては、100キロを超えるものもいます。体色は、黒褐色から赤褐色です。おなじみの「ウリ坊」は、生後3カ月程度まで。白またはベージュ色の縞模様が入ります。縞模様は、成長とともに薄くなり、消えていきます。

Form



1_ 植物の根や地中のミミズなどを探するために掘り荒らされ、破壊された水田畦畔（貝生） 2_ 水田に残るイノシシの足跡（針生） 3_ 設置された罠にかかったイノシシ（滝野） 4_ イノシシが歩き回り、踏み荒らされた麦畑（平田）



イノシシはどんな動物？ 生態を知る

イノシシが私たちの生活域に出没する理由は、その生態を知ることでも明らかになります。

■想像以上に頭が良い

食料のある場所を覚える、園地への侵入に成功した仲間の行動をまねるなど、高い学習能力と記憶力を持っています。

また、自分にとって無害であると学習する（慣れる）と、人前に入るなど大胆に行動することもあります。

■高い身体能力の持ち主

運動神経が良く、時速45^{km}の速さで走ります。また、垂直1・2^mの高さを飛び越えるジャンプ力も持っているほか、幅20^mの隙間もくぐり抜けられます。さらに泳ぐこともでき、

2〜3^mの距離でも簡単に泳げるそうです。

視力は高くありませんが、嗅覚・聴覚が高く、周囲の警戒にあたります。鼻で押し上げる力も強く、70^{kg}のものを持ち上げる力があるといわれています。

■実は臆病で慎重派

基本的に臆病な性格で、警戒心が非常に強く、通り慣れた獣道を往復します。

また、「猪突猛進」という言葉のイメージでは、真つすぐに進むことしかできないと思われるがちですが、左右に曲がる・急停止・急発進など縦横無尽です。人を襲うことはめったにありませんが、自分の生命の危機と判断し、パニック状態になって逆上したときに人に危害を加えるとされています。

■何でも食べる

食性は、植物食を主とした雑食性で、人間が食べるようなものはほとんど食べるといわれています。

また、季節的变化が見られ、「旬」のものを食べます。

季節ごとのイノシシの主な食べ物

春期 (5～6月)	草本やタケノコ
夏～初秋期 (7～9月)	双子葉植物
秋季 (10～12月)	堅果類（ドングリ・クリ） 及び動物質（昆虫・ミミズ）
晩秋～冬期 (11～4月)	根・塊茎

■夜行性ではない

本来は昼行性の動物です。しかし臆病なため、人間の少ない夜間に活発に行動します。

イノシシは本来、平地を好むとされていますが、人間を避けるため落葉・広葉樹林や茂み、耕作放棄地や竹林等の食料が豊富で身をひそめられる場所を好む

私たちにできることは？

対策を知る

町では、イノシシ対策として、猟友会の皆さんの協力により捕獲活動にあたっています。

一方で、農作物被害の防止には、地域の皆さんの協力による予防も重要となります。そのため、「隠れる場所がない」「食べ物が少ない（食べられない）」と、イノシシに覚えさせることが重要です。

【私たちにできる対策①】

■近づかせない

明るく見通しのよい場所を嫌うため、家や畑、果樹園等の周囲の草を刈り払うことでイノシシは近寄りづらくなります。山際に隣接する藪（やぶ）、河川敷や堤防、近年増加している空き家や遊休化した農地など、野生動物の隠れる場所はないか確認してみましょう。

【私たちにできる対策②】

■エサ場をなくす

イノシシは、食料がある場所を覚えます。収穫しない果物や野菜、家庭で出た生ゴミなどを誘い寄せるものはないか確認してみましょう。

【私たちにできる対策③】

■囲いで守る

農業あるいは自家用の菜園は、私たちの生活には欠かせないものです。守るべき畑や果樹園は柵で四方を囲み、侵入を防ぎましょう。柵にも、ネット柵、電気柵、金属フェンスなどさまざまな種類があります。畑の規模や作物の種類、侵入する鳥獣等を把握し、現場にあったものを設置しましょう。特に電気柵は、イノシシに痛みを覚えさせ



電気柵設置前の畑（右）と電気柵設置後の畑（左）

ることができ、効果が期待できるとされています。

■もし、イノシシに遭遇してしまったら

基本的に警戒心が強いいため、こちらが刺激しない限り近づいてくることはありません。それでも遭遇してしまった場合は、慌てず、ゆっくりと静かに後ずさりしながら、その場を離れるようにしましょう。声を出したり、後ろを向いて逃げたりすると、イノシシを刺激して逆に襲われる可能性があります。



イノシシは悪者か？

イノシシを含む野生鳥獣は、「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」により守られ、許可を受けない限りむやみに捕獲することは禁止されています。確かに、私たちの生活域に現れ、農作物を荒らすという側面では、イノシシは悪者といえるかもしれません。しかし、イノシシの生態を知り、同じ目線で考えれば、彼らは生きるために必要なことをしているだけであると考えすることもできます。

鳥獣対策の目的は、むやみに鳥獣を減らすことではなく、鳥獣による被害を減らすことです。これには、町や猟友会の取り組みだけでは間に合いません。町民の皆さんに協力いただきながら、私たちとイノシシの住むべき場所をしっかりと区別できる環境を整えることが、鳥獣被害への効果的な対策となります。皆さんで共通認識をもって鳥獣被害を考え、私たちと野生鳥獣の生活、どちらも守っていきましょう。

1_掘り返されたジャガイモ畑（中山） 2_イノシシが食べた稲穂。モミをくわえてしごき取って食べる（針生）